

令和2年度 第1学期終業式 校長式辞（要旨）

入学式・始業式の日から数え、今日は117日目に当たる。そのうち、学校の登校日は、63日間。今日のような節目の日には、これまで自分自身が過ごしてきた時間をしっかりと振り返ってみてほしい。素直な気持ちで これまでを振り返り、成長できた点と 反省すべき点を確認することは、未来に向けて次の一歩を踏み出すために必要なこと。

この一学期は、新型コロナウイルス感染拡大による臨時休校を抜きには語れない。

3月4日の日から突如始まった 約一月の臨時休校が、やっと終わり、4月6日から、新学期が始まったのも束の間、2週間で一旦打ち切りとなり、再び長い臨時休校となった。皆にとっては、長く暗いトンネルの中にいるような毎日だったことと思う。

ごく普通の当たり前の学校生活が、どんなに大切なものかを、身をもって感じた人が多かったのではないかと思う。

6月1日から通常の授業がスタートしたが、部活動に制限があったり、スポーツ大会が中止になってしまったりと、不自由で我慢を強いられることが多かったことと思う。

しかし、それは 少し見方を変えてみれば、皆は、これまで経験したことの無い感染症拡大という困難な状況に適応し、一つ一つ乗り越えながら生活をしてきたということ。

皆の学校生活を見て、生活のリズムを取り戻し、真剣な態度で、意欲的に、毎日の授業に参加していたことは本当に素晴らしかった。これからも、感染症との戦いは続く。しかし、どんなに困難な状況であっても、常に前向きに物事をとらえ、今、自分がやるべきことをしっかりと自覚し、しなやかに たくましく 生き抜く力を身に付けてほしい。

次に、これからも 皆さんに 努力してほしいことについて二つ、話す。

一つは、これからも 友達や先生方、先輩や後輩たちと「温かい 良い人間関係」を築いてほしいということ。「温かい 良い人間関係」とは、お互いのよさを認め合い 気持ちよく協力し合えるような 人間関係である。学校全体が 温かい人間関係でいっぱいになれるよう これからも皆で 努力しよう。

学校の中に、いじめのウイルスがはびこると、「温かい人間関係」はいつしか壊され、病気が少しずつ広がるように、「冷たい 悪い 人間関係」に支配されてしまう。

いじめのウイルスとは、例えば、人が嫌がることをしつこく繰り返したり、誰かを無視したり、スマホのSNSで誰かの悪口を書き込んだりといったこと。

「冷たい 悪い人間関係」の中にと、皆は 自分のよさや力を 発揮することが できなくなってしまふ。人は誰でも 自分と同じではない。それぞれに 全く自分とは異なる個性を持っている。そして、誰でも その人にしかない「よさ」を持っている。お互いの「よさ」「良い点」に、もっと目を向け、認め合えるようになってほしい！学校全体を 温かい 良い人間関係でいっぱいにしてほしい。

努力してほしいことの二つめは、「元気なあいさつ」です。元気なあいさつのできる人は、確実に増えてきている。しかし、いつも 元気でさわやかな あいさつのできる人がもっと増えてくれることを期待する。

「あいさつの力」があれば、将来は必ず それがみんなを助けてくれるはず。必ず皆のためになるはず。「あいさつ」は、社会に出て通用するために必要な力。あらゆる人間関係の出発点となる大切な力。そして、人としてごく当たり前のこと。しっかりと「あいさつ」のできる人が、これからも増えてほしい。

「あじさいの花」は、小さな花がたくさん集まって一つの大きな花になっている。小さな花は、皆一人一人の心がけ。一人一人の心がけが結集して、素晴らしい平二中になることを期待する。

明日からは、これまでより短い24日間の夏休み。皆が自分の意志で、しっかりと目標を決め、充実した夏休みを送ることを期待する。

最後に、一つ、この夏休みに、心に止めておいてほしいことがある。八月十五日、終戦の日のこと。今から75年前の8月15日、たくさんの方々が犠牲となった太平洋戦争が終結した日。この夏も、テレビや新聞等で、終戦の日まつわることが報じられることと思う。亡くなられたたくさんの方々のことを思いながら、平和の尊さについて考えてみてほしい。

令和2年7月31日

平第二中学校長 玉 澤 淳